

(別紙1)

管理運営状況 評価シート【令和元年度】

(評価日 令和2年6月30日)

1 施設の概要

施設名	いわてリハビリテーションセンター
所在地 電話・FAX HP・電子メール	岩手郡雫石町七ツ森 16 番地 243 電話 019-692-5800 FAX 019-692-5807 ホームページ http://www.irc.or.jp メールアドレス info@irc.or.jp
設置根拠	リハビリテーションセンター条例 (平成5年7月13日条例第31号)
設置目的	(設置:平成5年10月1日) リハビリテーション医療並びにリハビリテーションに関する教育研修及び地域における活動の支援等を行うことにより、県民の保健医療の充実に寄与することを目的とする。
施設概要	土地面積 28,514.69 m ² 病院施設延べ面積 8,249.01 m ² 病床数 一般 100床 (回復期病床 100床)
施設所管課	岩手県保健福祉部医療政策室 (電話 019-629-5416、メールアドレス AD0002@pref.iwate.jp)

2 指定管理者

指定管理者名	公益財団法人いわてリハビリテーションセンター
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日 (5年間)
連絡先	いわてリハビリテーションセンター 岩手郡雫石町七ツ森 16 番地 243 電話 019-692-5800 FAX 019-692-5807

3 指定管理者が行う業務等

業務内容 (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションに関する教育研修及び地域における活動の支援等に関する業務 ・施設及び設備の維持管理に関する業務 				
職員配置、管理体制	209人 (常勤換算 175人) (平成31年4月1日現在)		○組織図 別紙1のとおり		
	(内訳) (単位:人)		○非常勤職員常勤換算		
	区分	財団職員		県派遣	計
		正規	臨時等		
	医師	6	15	0	21
	看護師	47	5	0	52
	薬剤師	2	0	0	2
	検査技師	2	0	0	2
	放射線技師	1	2	0	3
	管理栄養士	3	0	0	3
	理学療法士	33	0	0	33
	作業療法士	27	0	0	27
	言語聴覚士	11	0	0	11
	臨床心理士	3	0	0	3
	医療社会事業士	7	1	0	8
	事務	14	11	1	26
歯科衛生士	1	0	0	1	
介護福祉士	10	0	0	10	
看護助手	0	7	0	7	
合計	167	41	1	209	
				計 175名	
				常勤換算後の職員数	
				財団正規 167名	
				県派遣 1名	
				財団臨時 21名	
				非常勤 2名 (常勤換算)	
				計 175名	

利用料金	健康保険法等の規定により定められた診療報酬の算定方法等により算定した額のほか、リハビリセンター条例施行規則（平成5年9月28日規則第64号）に定める利用料金		
診療時間及び受付時間	診療時間 受付時間	9時から17時まで 8時30分から16時まで	休診日 <ul style="list-style-type: none"> ・日曜日及び土曜日（リハ部門を除く） ・国民の祝日 ・12月29日から翌年1月3日までの日

4 施設の利用状況

(医療事業実績)	前期間平均	指定管理期間						備考
		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	期間平均	
延べ患者数	入院	29,456	29,447	29,105			29,276	
	外来	4,860	4,151	3,838			3,995	
1日平均患者数	入院	80.7	80.7	79.5			80.1	
	外来	20.0	17.0	16.0			16.5	
患者1人あたり 1日平均収益	入院	39,851	42,295	42,864			42,580	
	外来	11,914	11,880	11,865			11,873	
病床利用率(%)		80.7	80.7	79.5			80.1	
平均在院日数(日)		86.5	88.4	83.6			86.0	

5 収支の状況

(単位：千円)

区分	前期間平均	指定管理期間						備考
		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	期間平均	
経常収益	1 医業収益	1,265,071	1,330,679	1,331,397			1,331,038	
	入院診療収益	1,173,856	1,245,461	1,247,543			1,246,502	
	外来診療収益	57,611	49,313	45,538			47,425	
	その他医業収益	33,604	35,905	38,316			37,111	
	2 医業外収益	161,675	158,336	159,006			158,671	
	県からの指定管理料	135,898	131,559	132,955			132,257	
	受託事業収益	17,455	18,556	17,108			17,832	
	その他の医業外収益	8,322	8,221	8,943			8,582	
	3 基本財産運用益	-	445	446			446	
	4 特別利益	0	0	0			0	
合計	1,426,746	1,489,460	1,490,849			1,490,155		
経常費用	1 医業費用	1,393,729	1,442,707	1,518,033			1,480,370	
	給与費	1,008,215	1,035,308	1,092,919			1,064,114	
	材料費	83,784	72,359	77,486			74,923	
	経費	286,670	311,615	333,148			322,382	
	その他医業費用	215,060	16,105	14,480			15,293	
	2 医業外費用	28,947	7,320	175			3,748	
	地域支援事業費 (うち職員給与費)	25,529	0	0			0	
	教育研修事業費	532	0	0			0	
	研究開発事業費	1,309	0	0			0	
	その他医業外費用 (不用品原価、雑損失等)	1,578	7,320	175			3,748	
	3 特別損失	0	0	0			0	
	4 管理費	-	7,457	8,065			7,761	
	合計	1,422,999	1,450,164	1,526,273			1,488,219	
経常収支	15,372	39,295	▲35,424			1,936		
経常外収支	-	▲11,893	▲330			▲6,112		
収支	-	27,402	▲35,754			▲4,176		
前年度繰越金	494,977	371,325	398,727			385,026		
翌年度繰越金	498,727	398,727	362,973			380,850		

6 利用者の意見等への対応状況

(1) 利用者意見（満足度等）の把握方法

把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ・医療相談窓口対応責任者の指定、投書箱の設置、栄養科における随時嗜好調査の実施によるニーズ等の定期的な把握 ・患者満足度調査等の実施 ・連携機関訪問による聞き取り ・ホームページ上からの問い合わせ 等 	実施主体	診療部、医療連携部、業務推進部
------	---	------	-----------------

(2) 利用者からの苦情・要望

受付件数	苦情1件、要望9件、その他15件		
主な苦情、要望等	対応状況		
①入院中の食事提供時に品物が違ったものが出たり、量が違っていたり、ネームは本人で品物は外泊でない人のものだったり、最近間違いが多いので注意してほしい。	現状の手順を示し説明した上で、チェック体制を強化し再発防止に取り組む考えを示した。		
②売店、日曜日もぜひ営業してほしい。 日用品を急にほしいときがあるので…… よろしくをお願いします。	旧営業者の都合により4月から営業を休止していたが、6月から新たな営業者により新規オープンした。営業収支見込を勘案し、月曜日から土曜日の8時～14時とし、日曜祝日は閉店と、旧売店より縮小した形でのスタートとなった。今後、収支の状況によっては、営業日の拡大（日曜日の営業）等に取り組んでいきたいとのことなので、理解いただくようお願いした。		
③赤ちゃんがオムツかえられるベビーベッドかなにか、ないのでしょか。	早急にベビーベッドの設置について検討することとし、設置されるまでの対応として、赤ちゃんのオムツを交換したい等の場合は、事務室の職員や病棟のスタッフに申し出ていただき、対応することとした。		
(その他利用者からの積極的な評価等) 療養環境への不平不満、要望や職員の言動への苦言等があり、でき得る限り対応を行った。 また、感謝や労いの投書が半数を占め、これらは全職員に公開し、モチベーションの向上に利用した。			

7 業務点検・評価（※）

(1) 業務の履行状況

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
運営業務	次に掲げるリハビリテーション事業 ・医療事業 ・地域における活動支援事業 ・教育研修事業・調査研究事業	医療事業は、入院患者延数が目標を大きく下回ったが、リハ提供単位数の増や加算の算定等により入院患者単価は僅かに増加した。 地域支援、教育研修、調査研究等の公益事業については概ね計画に沿って取り組むことができたが、新型コロナウイルスの感染拡大予防により集会行為が制限されたため、一部事業で会議や研修会の中止、延期、開催方法の変更等の対応に迫られた。	C
施設の利用状況	管理計画のとおり (365日リハの実施) (病床利用率 82.0%)	施設の利用状況（利用者数）の実績は、前記「4 施設の利用状況」とおり。 365日リハの実施は、計画どおり継続して実施できた。 病床利用率は紹介患者数が増えたものの、在院日数の短縮等により病床利用率は79.5%に留まった。	C

事業の実施状況	次に掲げるリハビリテーション事業の実施 ・医療事業 ・地域における活動支援事業 ・教育研修事業・調査研究事業	(実績：別紙2のとおり)	B
施設の維持管理状況	・法令等による検査等 ・安全・保安上の点検業務等 ・施設修繕の実施	・法令等による検査等 煤煙測定、簡易水道検査、重油地下タンク漏洩検査、建築物定期検査等を実施。 ・安全・保安上の点検業務等 (実績：別紙3のとおり) ・施設修繕の実施 (実績：別紙3のとおり)	B
記録等の整理・保管	・法令等の規定に従い、各部門における記録の整理・保管	・各部門にて年度毎に編綴、保管 ・診療録は永年保管中	B
自主事業、提案内容の実施状況	・公益事業の充実 ・広報計画	・公益事業の充実 シルバーリハビリ体操指導者養成事業の拡大実施、岩手医大リハ科との教育連携、共同研究 ・広報計画 計画どおり、機関紙（情報誌「ななつもり」）の発行（4回/年）、ホームページの随時更新、（令和元年12月1日）いわてリハビリテーションフォーラム2019を開催（348名の来場）	B
(施設所管課評価) ・成果のあった点 概ね適切に管理業務が履行されている。 入院単価の増に努めているほか、シルバーリハビリの普及等、地域支援に力を入れていること。 ・改善を要する点 紹介患者の減により赤字となったことから、収益拡大、財務状況の安定化に取り組むこと。			B

(2) 運営体制等

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
職員の配置体制	・法令等の規定に従い、各部門における適正な職員の配置	法定人員数を満たしているが、医師、療法士、看護師、看護補助者の職種においては、勤務環境を考慮すると十分な職員確保ができなかった。	C
苦情、要望対応体制	・医療相談窓口の設置 ・管理運営への反映	医療窓口相談及び投書箱の設置により把握し、都度、関連部署にて改善策を検討し実施することで、質の向上に努めている。	B
危機管理体制（事故、緊急時の対応）	・職員非常招集連絡システムの整備 ・防災訓練の実施	8月に総合避難訓練を実施。その後、新採用職員を中心に消火器、消火設備の使用訓練を実施。 10月に夜間想定総合避難訓練を実施。その後、避難スロープや避難梯子の使用訓練を実施。	B

コンプライアンスの取組み、個人情報の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> 法令順守の取組み 個人情報の保管及び取扱い 職員等への指導 	<p>各規程により管理するとともに、新採用者にはオリエンテーションを行い、取扱いの徹底を図っている。</p> <p>また、個人情報の取扱いについては、全職員を対象とした研修会を開催し、取扱いの注意・指導を行っている。</p>	B
県、関係機関等との連携体制	<ul style="list-style-type: none"> 円滑な連携のとれる体制 	<ul style="list-style-type: none"> 県央保健所の働きかけにより、管内の医療機関・施設の医療連携担当者を一覧化 盛岡、奥州、気仙医療圏連携パス会議等への積極的に参加 	B
<p>(施設所管課評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果のあった点 概ね適正な管理運営体制が確保されていること。 改善を要する点 勤務環境を考慮した医療従事者の確保に努めること。 			B

(3) サービスの質

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
運營業務	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画による研修・訓練の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 患者、家族等への指導・研修 開催回数 47 回、参加者数延べ 326 人 学生臨床指導 延 21 校、対象学生延べ 1,264 人 	B
利用者サービス	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修計画 医療及びリハビリ等の専門研修並びに医療安全管理研修等を年 12 回程度実施 	<ul style="list-style-type: none"> 全 14 回実施。(うち、リハ医療等専門研修 4 回、医療安全管理研修 5 回、その他業務関連 5 回実施。) 院内研究発表会 1 回実施 (4 件) 	A
利用者アンケート等	<ul style="list-style-type: none"> 利用者アンケート実施計画 	<p>前々年度 3 月に実施した満足度調査の結果を受け、各部門で更なるサービス向上に向けて改善策を検討し取り組んでいる</p>	C
<p>(施設所管課評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果のあった点 積極的に、職員にリハ医療等専門研修や医療安全管理研修などを受講させるなど、職員の医療技術の向上に努めていること。 改善を要する点 職員満足度調査を定期的に実施し、組織全体で職場環境等の改善努力を行うこと。 			B

(4) サービス提供の安定性、継続性

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
事業収支	<ul style="list-style-type: none"> 安定的経営の確保 	(前記「5 収支の状況」のとおり)	C

<p>指定管理者の経営状況</p>	<p>・安定的な経営の確保 (管理計画書に基づく適切な管理運営)</p>	<p>入院単価は、入院料加算の上乗せ、リハ提供単位の増加により、計画をやや上回ったが、入院患者数は計画を大きく下回り、経常収支で 3,500 万円強の赤字となった。</p> <p>紹介元医療機関を訪問し、情報提供や意見交換を行い、民間の患者搬送サービスの活用による入院時の送迎範囲を拡大等により、紹介患者の確保に努めたが、前年度を上回る患者紹介は得られなかった。</p> <p>また、リハ提供単位数については、週間目標の設定、算定状況の管理が定着したが、昨年ほど大きな伸びには繋がらなかった。</p>	<p>C</p>
<p>(施設所管課評価)</p> <p>・成果のあった点 概ね適切にサービス提供を行っていること、入院単価増など経営安定化に努めていること。</p> <p>・改善を要する点 紹介患者の減等の要因により赤字となったことから、収益拡大、財務状況の安定化に取り組むこと。</p>		<p>C</p>	

※ (注1) 県記載欄：「事業計画・県が求める水準」、「評価指標」「施設所管課評価」

指定管理者記載欄：「実績（自己評価）」

(注2) 評価指標

- A：協定書、提案書等の内容について高レベルで実施され、また、計画を上回る実績（効果）があり、優れた管理がなされている。
- B：概ね協定書、提案書等の内容どおり実施され、計画どおりの実績（効果）があり、適切な管理が行われている。
- C：一部、改善・工夫を要する事項が見られたが、改善済み、または改善される見込みである。
- D：協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。

8 指定開始年度から評価年度までの総合評価

(1) 指定管理者の自己評価

<p>① 成果があった取組、積極的に取り組んだ事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入院患者一人1日当たりのリハビリテーション提供単位数は、目標にわずかに及ばなかったものの、体制強化加算や増税相当分の診療報酬改定により、入院単価は目標を上回った。 また、紹介元医療機関の訪問による連携強化や入院決定プロセスの迅速化、入退院時の送迎体制強化、紹介から入院までの待機時間の短縮等による患者確保の取組を継続したところ、紹介数はわずかに伸びたが、延べ入院患者数は前年度に比べ大きく減少した。 ・ 事業5年目となるシルバーリハビリ体操指導者養成事業は、令和元年度に一戸町が参加し、県内 14 市町村にまで拡大した。これまでに3級指導者は585名、2級指導者は196名、1級指導者は24名が認定され、住民参加型の介護予防システムが円滑に実施されるよう、指導者養成・支援を行った。 ・ 当センターの退院患者に対し、訪問リハ・訪問看護の提供に加え、介護保険による通所リハを週2回の実施とし、医療と介護の連携による円滑な在宅復帰に取り組んだ。

<p>② 現在、苦慮している事項、今後、改善・工夫したい事項、積極的に取り組みたい事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 働き手不足、都市部への偏在等により、療法士や看護師の確保が困難となってくることが予測される。 既に看護師の不足が生じ、看護補助者等の臨時職員も応募者がいないことから、人材派遣会社に頼らざるを得ない状況となっている。 地理的な不利や、他施設との給与格差（特に若年層）については、根本的な解決は困難であるが、勤務時間の弾力的運用や短時間制雇用制度等の運用により、ワーク・ライフ・バランスの推進、労働環境の整備や人員確保に取り組む必要がある。 ここ数年の職員の増員や退職補填により、新人又は経験の浅い職員が増えたため、これらの職員に対する知識、技術等の研修体制のあり方、次世代の担い手の人材育成について、計画的な取組が必要である。 回復期リハ病棟は、管理栄養士の病棟配置等の必須やアウトカム評価の実績指数の引上げ(37→40)が行われるなど、一層の診療の質向上、体制強化が求められている。これに対し、いかに迅速に対応して質の高いリハビリテーション医療を提供していけるかが、回復期リハビリを実施していく上で必須の課題となる。
<p>③ 県に対する要望、意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> 岩手県におけるリハビリテーションの中核施設としての位置付けから、県行政の執行機関的役割として、県保健福祉部各室課からの事業支援の依頼や委託契約がある。県所管課でも、これらの業務を一元管理できる仕組みづくりをお願いしたい。 大規模改修について、利用者の療養環境に配慮した改修内容、工期スケジュールとなるよう計画していただきたい。 基本理念にて、「岩手県のリハビリテーション医療中核施設として、高度で先進的なリハビリテーション医療の提供」を掲げていることから、医療機器の整備にあたっては、既存機器の更新のみにとらわれず、最先端の治療・検査・訓練等に要する「新規」機器の整備に積極的に取り組んでいただきたい。 当センターの業務、行事等の企画、立案、準備等を円滑に進めるため、県の予算要求、議会対応等の年間スケジュール等について、可能な範囲で年度当初や必要に応じ随時、情報提供いただきたい。

(2) 県による評価等

<p>① 指定管理者の運営状況について</p> <p>管理計画に基づき、概ね適切な管理運営が行われていること。</p> <p>改善の必要性が認められる医師、療法士等の確保については、医療従事者が全県的に不足しているという困難な状況ではあるが、本県のリハビリテーション医療の中核施設として求められる医療を提供し続けるため、今後も引き続き取り組んでいく必要がある。</p> <p>入院単価や紹介患者数の増加に関する取組を積極的に実施したことにより、平成 30 年度決算は黒字であったが、令和元年度は夏季の紹介患者数減などの要因により赤字となった。今後、安定的な経営を継続するため、長期的な視点で経営基盤の確保に努める必要がある。</p>
<p>② 県の対応状況について（自己評価）</p> <p>施設の管理運営に関し、指定管理者との意思疎通を十分に図るようにしている。</p> <p>また、医療機器や施設設備等の更新に係る今後の方針については、指定管理者とも連携し検討しているもの。</p>
<p>③ 次期指定管理者選定時における検討課題等</p> <p>高齢化が進展する中、リハビリテーションに対するニーズは今後も増加していくことが見込まれることから、県内リハビリテーション医療の中核施設として、県民の保健医療の充実に寄与すべく、様々な観点から検討を加えていく必要がある。また、県と指定管理者の役割分担のあり方を検討していく必要がある。</p>

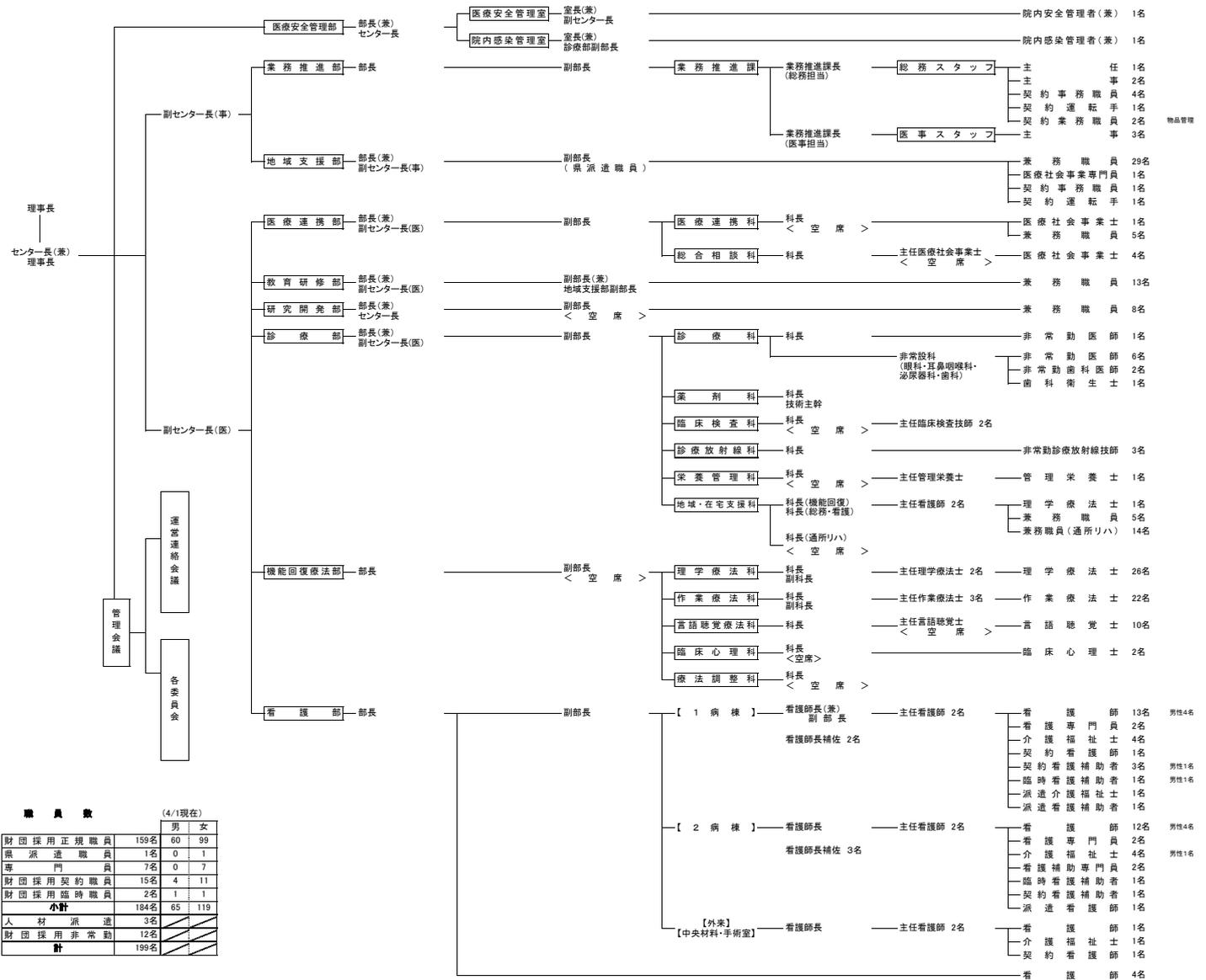
9 改善状況等

改善を要すると評価された項目（C、D評価の項目について）
改善状況
（指定管理者から県への報告年月日： 年 月 日）
改善状況の確認
（再評価年月日 年 月 日）

別紙 1

平成31年度 いわてリハビリテーションセンター組織図

(平成31年4月1日現在)



職員数 (4/現在)

	男	女
財団採用正規職員	159名	60 99
県派遣職員	1名	0 1
専門員	7名	0 7
財団採用契約職員	15名	4 11
財団採用臨時職員	2名	1 1
小計	184名	65 119
人材派遣	3名	
財団採用非常勤	12名	
計	199名	

事業の実施状況

(1) リハビリテーション医療事業

A 入退院患者の状況

ア 一日平均入院患者数 (単位：人)

令和元年度	79.5
平成30年度	80.7
増減	▲1.2

イ 患者数 (単位：人)

平成30年度末 入院患者数	令和元年度 入院患者数	令和元年度 退院患者数	令和元年度末 入院患者数
80	345	343	82

ウ 平均入院日数 (単位：日)

	男性	女性	合計
令和元年度	90.3	78.9	86.8
平成30年度	88.3	91.9	89.5
増減	2.0	▲13.0	▲2.7

エ 退院先

令和元年度	自宅	病院	その他	合計
退院患者数 (人)	267	44	32	343
構成割合 (%)	77.9	12.8	9.3	100

<参考>

平成30年度	自宅	病院	その他	合計
退院患者数 (人)	260	37	35	332
構成割合 (%)	78.3	11.1	10.6	100

オ 入院患者の疾患別内訳

令和元年度	脳血管 障害	神経系 疾患	外傷性 疾患	骨関節 疾患	その他	合計
患者数 (人)	224	24	48	24	25	345
構成割合 (%)	64.9	7.0	13.9	7.0	7.2	100

<参考>

平成30年度	脳血管 障害	神経系 疾患	外傷性 疾患	骨関節 疾患	その他	合計
患者数 (人)	209	29	62	22	5	327
構成割合 (%)	63.9	8.9	19.0	6.7	1.5	100

カ 主な保健医療圏別患者数

令和元年度	盛岡	岩手 中部	宮古	二戸	気仙	釜石	胆江	その 他	合計
患者数 (人)	158	37	37	17	17	17	45	17	345
構成割合 (%)	45.8	10.7	10.7	4.9	4.9	4.9	13.0	4.9	100

※その他の内訳：久慈3人、両磐6人、県外8人

<参考>

平成30年度	盛岡	岩手 中部	宮古	二戸	気仙	釜石	胆江	その 他	合計
患者数 (人)	152	48	33	17	15	9	38	15	327
構成割合 (%)	46.5	14.7	10.1	5.2	4.6	2.7	11.6	4.6	100

※その他の内訳：久慈3人、両磐6人、県外6人

キ 平均年齢 (単位：歳)

令和元年度	男性	女性	合計
入院患者平均年齢	61.9	66.2	63.3

<参考> (単位：歳)

平成30年度	男性	女性	合計
入院患者平均年齢	60.0	64.3	61.2

B 外来患者の状況

令和元年度	常設診療科	非常設診療科							計
		泌尿器科	耳鼻咽喉科	眼科	歯科	循環器内科	糖尿病代謝内科	精神科	
患者数(人)	3,838	610	60	87	729	205	167	0	1,858

<参考>

平成30年度	常設診療科	非常設診療科							計
		泌尿器科	耳鼻咽喉科	眼科	歯科	循環器内科	糖尿病代謝内科	精神科	
患者数(人)	4,151	682	44	125	943	226	231	0	2,251

C 患者数の状況

ア 入院患者及び常設診療科外来患者数 (単位：人)

区分		令和元年度	平成30年度	増減	備考
入院	延患者数	29,105	29,447	▲342	
	1日平均患者数	79.5	80.7	▲1.2	
外来	延患者数	3,838	4,151	▲313	
	1日平均患者数	16.0	17.0	▲1.0	

イ 非常設診療科外来患者 (単位：人)

区分	令和元年度	平成30年度	増減	備考
泌尿器科	610	682	▲72	
耳鼻咽喉科	60	44	16	
眼科	87	125	▲38	
歯科	729	943	▲214	
循環器内科	205	226	▲21	
糖尿病代謝内科	167	231	▲64	
精神科	0	0	0	休診中

D 訪問事業

令和元年度	訪問リハビリ	訪問看護
実利用者数(人)	40	6
延訪問回数(回)	2,430	306

<参考>

平成30年度	訪問リハビリ	訪問看護
実利用者数(人)	43	9
延訪問回数(回)	2,542	332

E 通所事業

令和元年度	通所リハビリ
実利用者数(人)	14
延利用回数(回)	485

<参考>

平成30年度	通所リハビリ
実利用者数(人)	8
延利用回数(回)	276

F 市町村等への情報提供

地域で連続して保健指導や各種のサービスが受けられ、生活の確保が出来るように支援するため、退院時診療情報提供票、退院時看護要約、機能回復療法部報告書を居宅介護支援事業所等と市町村に情報提供を行った。

令和元年度	139 件
平成 30 年度	133 件

(2) 地域支援事業

A 市町村支援事業

要請の市町村への支援

- ① 雫石町地域包括ケア・多職種連携会議、自立支援サポート会議等への出席
派遣回数 15 回、派遣職員数延 42 人

B 地域リハビリテーション関係職員研修会

県内保健医療圏毎に地域リハビリ関係者に対し研修会を実施
開催回数 4 回、派遣職員数延 30 人 被指導者数延 117 人

C リハビリテーション情報の提供

リハビリテーション活動の紹介や最新情報を掲載した情報誌「ななつもり」を、年間 4 回ホームページ上に掲載し発信した。

D 広域支援センター支援事業

地域リハビリテーション広域支援センター連絡協議会を 1 回開催（8 月 29 日）
広域支援センター・保健所等との連絡調整、話題提供、研修会への講師派遣等
9 圏域、14 回、従事職員数延 32 人

E 介護予防研修会等

要請の市町村圏域等への支援

- ① 盛岡市地域包括支援センター・介護支援センター職員研修会講師派遣
派遣回数 1 回、派遣職員数 1 人、被指導者数 48 人
- ② 雫石町地域ケア個別会議に係る説明会・講演会講師派遣
派遣回数 1 回、派遣職員数 1 人、被指導者数 48 人
- ③ 雫石町生きがい健康づくり事業「イケてるおやじ&マダム学園」講師派遣
派遣回数 1 回、派遣職員数 1 人、被指導者数 30 人
- ④ 雫石町・西和賀町主催のシルバーリハビリ体操 3 級指導者養成事業への職員派遣
派遣回数 6 回、派遣職員数 12 人、養成者数 12 人
- ⑤ 岩手県リハビリテーション専門職介護予防従事者連絡会議講師派遣
派遣回数 1 回、派遣職員数 1 人、被指導者数 59 人

F 高次脳機能障害者支援普及事業

県内の支援拠点機関としての支援体制の整備を図り、専門的な相談支援及びサービスを提供

・相談支援コーディネーター 4 名及び地域支援コーディネーター 4 名を配置し、専門的な相談支援及び関係機関との連絡調整を行った。

相談件数延べ 1,195 件、実人数 103 名

- ・支援ネットワーク構築のための連絡協議会の開催
1 回開催、出席者数延べ 31 名
- ・具体的な支援手法の検討を行うためのワーキンググループの開催
1 回開催、出席者数延べ 15 名
- ・支援の普及に向けた研修会の開催
3 回開催、参加者数延べ 117 名
- ・普及啓発を目的に当時者・家族を中心とした交流会を開催
1 回開催、参加者数延べ 81 名

- ・地域における支援体制整備のための支援
県内8圏域の地域拠点機関と協働し、地域支援体制の整備を図った。
- ・事業周知のためのPR・広報活動の実施
ホームページやメールニュースを通じて理解と支援の拡大を図った。

G シルバーリハビリ体操指導者養成事業

14市町村に対し、高齢者を対象に体操指導者を養成し、地域住民が運営する介護予防及び通いの場づくり等の円滑な実施の支援を行った。

- ・1級指導者養成講習会（4日間）
開催回数1回、従事職員数延43人、養成数12人
- ・2級指導者養成講習会（4日間）
開催回数2回、従事職員数延47人、養成数41人
- ・3級指導者養成講習会（6日間）
開催回数3回、従事職員数延99人、養成数54人
- ・フォローアップ、通いの場の評価等
開催回数5回、従事職員数延15人、被指導者数184人
- ・指導者養成事業に係る講演会及び指導者交流会
開催回数1回、従事職員数13人、参加者数254人

H 補装具相談会の開催（岩手県福祉総合相談センターからの依頼事業）

①巡回相談

担当医師名	相談回数 (開催地)	補装具相談件数（非該当を除く）						計
		義手	義足	装具	車椅子	座位保持装置	その他	
村上英恵	5回(宮古市、二戸市、遠野市、久慈市)	5件	52件	68件	26件	0件	0件	151件
阿部深雪	5回(宮古市、二戸市、奥州市)	3件	39件	88件	6件	0件	0件	136件
計	10回	8件	91件	156件	32件	0件	0件	287件

②来所相談

担当医師名	相談回数 (開催地)	補装具相談件数（非該当を除く）						計
		義手	義足	装具	車椅子	座位保持装置	その他	
佐藤義朝	11回(盛岡市：岩手県福祉総合相談センター)	3件	120件	88件	40件	7件	0件	258件

(3) 教育研修事業

A 保健福祉等高齢者施設職員等研修会

- ・呼吸リハビリテーション研修会（1日間） 開催回数1回、受講者数28人
- ・高齢者保健福祉施設リハビリテーション研修会（2日間） 開催回数1回、受講者数延68人
- ・車いすシーティング研修会（1日間） 開催回数1回、受講者数30人

B 患者家族教室

- ・お口元気教室、医師講話会、リハビリ教室、栄養教室 開催回数47回、参加者数延326人

C 学生受け入れ

医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の学生受け入れ延21校、実225人(延1,264人)

D リハビリテーションセンター体験学習
ふれあい看護体験 2回、25人、インターンシップ 1回、2人、サマーセミナー 1回、3人
杏林大学保健学部理学療法学科見学実習 1回、63人

E 講師派遣
学生講義、施設職員対象研修等 44回、受講者数延2, 487人

F 院内職員研修会
開催回数14回、参加者数延1,348人（うちDVD受講426人）

- ①4月24日 テーマ「医療安全①～一次救命処置について」
講師 診療科長 森潔史
- ②5月15日 テーマ「いわてリハビリテーションセンターの今後のあり方」
講師 理事長 大井清文
- ③5月29日 テーマ「職員を元気にするメンタルヘルス～ストレスコーピング」
講師 岩手産業保健総合支援センター 産業保健相談員 藤井由里
- ④6月12日 テーマ「FIM研修①～採点のポイント・演習～セルフケアについて」
講師 作業療法士 長山悦子、阿部栞、木附沢一茂
- ⑤6月26日 テーマ「医療安全②～医療安全管理者養成研修会報告」
講師 主任看護師 川崎美香子、主任作業療法士 山本晶子
- ⑥7月10日 テーマ「FIM研修②～採点のポイント・演習～排泄・移乗・移動について」
講師 作業療法士 木附沢一茂
- ⑦7月31日 テーマ「院内感染①～手指衛生について」「海外研修報告」
講師 臨床検査技師 川村将史、理学療法科長 佐藤英雄
- ⑧8月28日 テーマ「医療安全③～『薬事関連』、『院内ガスについて』」
講師 薬剤科長 伊藤禎人、第一開明株式会社 下村浩二
- ⑨9月11日 テーマ「FIM研修②～採点のポイント・演習～認知について」
講師 作業療法士 阿部栞
- ⑩9月25日 テーマ「臨床倫理～ACPについて」
講師 中津川病院 医療福祉相談員 菊池麻衣子
- ⑪10月30日 テーマ「身体にかかる圧の影響と対策」
講師 株式会社モルテン 田原大輔
- ⑫11月20日 テーマ「院内感染②～感染対策～インフルエンザ・ノロウイルスを中心に」
講師 岩手県立病院 感染管理認定看護師 外館善裕
- ⑬12月25日 テーマ「個人情報の保護について」
講師 業務推進部 業務推進課長 山本康典
- ⑭1月29日 テーマ「接遇について」
講師 株式会社 a i びじねす 代表取締役 中村夢美子

G 普及啓発

- ①視察者に対するリハビリテーションの普及啓発
民間団体等のセンター視察対応
令和元年度 1団体、28人
※平成5年10月～令和2年3月累計 延べ864団体、16,640人
- ②いわてリハビリテーションフォーラム
一般県民に対するリハビリテーションの普及啓発
開催日 令和元年12月1日（日） 場所 アイーナ 来場者数348人

(4) 調査研究事業

医学的リハビリテーション技術の向上と障害者の福祉の向上を図るため、調査研究事業を行っている。

A 研究発表業績

ア 診療部

(医局)

1. VE 検査で認める喉頭蓋の咽頭後壁接触所見と嚥下障害の重症度との関係
第 56 回日本リハビリテーション医学会学術集会 兵庫県神戸市 2019 年 6 月 13 日
○佐藤義朝、森 潔史、大井清文、村上英恵、阿部深雪、
岩手医科大学・リハビリテーション科 西村行秀
2. 重度嚥下障害における完全側臥位法の適応と実践
第 4 回岩手神経内科症例研究会 岩手県盛岡市 2019 年 6 月 15 日
○佐藤義朝、森 潔史、大井清文
3. リハビリ中に精神症状が出現し、フェリチンの減少を伴った神経疾患の 2 例
第 46 回日本リハビリテーション医学会東北地方会 福島県福島市 2019 年 8 月 31 日
○大井清文、佐藤義朝、森 潔史、村上英恵、村田深雪
岩手医科大学・リハビリテーション医学科、西村行秀
4. 重複障害を有する重度嚥下障害に対し、完全側臥位法により 3 食自力摂取が可能となった
1 例
第 25 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会 新潟県新潟市 2019 年 9 月 6 日
○佐藤義朝、大井清文、機能回復療法部 女鹿清香、診療部 高橋静恵
5. 施設でもできる！ 嚥下障害の評価と新しい治療アプローチ～完全側臥位法の実践～
令和元年度口腔ケア従事者研修会 岩手県盛岡市 2019 年 10 月 11 日
○佐藤義朝
6. 岩手県シルバーリハビリ体操指導者養成事業による平成 29 年度までの 3 年間の指導者の活動
の拡がり と 課題
第 56 回日本リハビリテーション医学会学術集会 兵庫県神戸市 2019 年 6 月 15 日
○大井清文、佐藤義朝、森 潔史、阿部深雪、村上英恵、
岩手医科大学附属病院・リハビリテーション医学科 西村行秀
7. 高校在学中に受傷した脊髄損傷患者が留年せずに復学できた 2 症例
第 56 回日本リハビリテーション医学会学術集会 兵庫県神戸市 2019 年 6 月 14 日
○村上英恵、大井清文、佐藤義朝、森 潔史、阿部深雪
岩手医科大学附属病院・リハビリテーション医学科 西村行秀

(地域・在宅支援科)

8. 農業への復職を目指した脊髄損傷の一例～玄関の先にある畑へ～
第 6 回日本地域理学療法学会学術大会、京都府京都市 令和 1 年 12 月 13～15 日
○高階欣晴

イ 看護部

9. 退院を目指す全失語患者の主介護者の思いを引き出すための交換ノートを用いた効果
リハビリテーション・ケア合同研究大会 in 金沢 2019 石川県金沢市 2019 年 11 月 21～22 日
○古澤歩夢、後藤由美、上斗米律子、大井清文、中村令子

ウ 医療連携部

10. 就労意向のある方への支援に関する研究
～当センターを退院した 7 名の語りから MSW の役割を考察する～
第 27 回日本社会福祉士会・全国社会福祉士学会 茨城県つくば市 2019 年 6 月 2 日
○後藤敦博、上田大介、阿部泰子、青山美音、石鉢みづほ、巢内洋肇
11. 高次脳機能障害者支援ツール「高次脳機能障がいカルタ」を通じた今後の普及活動に関する
一考察
令和元年度第 32 回保健福祉環境行政セミナー 岩手県盛岡市 2020 年 2 月 7 日
○大江みづほ、阿部深雪、八重樫一洋、上田大介、吉田賢史、後藤敦博、村上敏昭、
村田美歩

エ 機能回復療法部
(理学療法科)

12. 当センターにおける片側大腿切断者の歩行速度の経時的変化
ー退院時と現在の歩行速度の比較・検討ー

- 第 35 回日本義肢装具学会学術大会 宮城県仙台市 2019 年 7 月 13～14 日
○村上敏昭、山下浩樹、関公輔、佐藤英雄
- 1 3. 下腿切断者における膝歩き動作と義足歩行の運動力学的検証
第 37 回東北理学療法学会学術大会 福島県福島市 2019 年 9 月 14～15 日
○村上敏昭、小野寺一也、関公輔
- 1 4. 誤嚥性肺炎後廃用症候群を来した症例に対する一考察
第 37 回東北理学療法学会学術大会 福島県福島市 2019 年 9 月 14～15 日
○千葉なつ美、佐藤義朝、中村一葉、小野寺一也、大井清文
- 1 5. 自立歩行を獲得した軸索型ギラン・バレー症候群の一例
第 21 回岩手県理学療法士学術大会 岩手県盛岡市 2019 年 9 月 22 日
○江口舞人、関公輔、佐藤義朝（診療部）
- 1 6. 脳卒中片麻痺患者における早期歩行練習が自立歩行の獲得に与えた影響
第 21 回岩手県理学療法士学術大会 岩手県盛岡市 2019 年 9 月 22 日
○柳葉美優、関公輔、小野寺一也
- 1 7. 腕神経叢損傷に伴う上肢単麻痺が歩行に与える影響
ー麻痺側上肢への補助具が歩行に与える運動力学的検証ー
第 7 回日本運動器理学療法学会学術集会 岡山県岡山市 2019 年 10 月 5～6 日
○村上敏昭、小野寺一也、関公輔
- 1 8. 岩手県シルバーリハビリ体操 1 級指導者養成における現状と課題
ー1 級養成課程の実習に着目してー
リハビリテーション・ケア合同研究大会 金沢 2019 石川県金沢市 2019 年 11 月 21～22 日
○佐藤英雄、渡辺幸太郎、村上敏昭、山崎麻友、照井恵利香、渡部祐介、高橋真由美、
八重樫一洋、大井清文

(作業療法科)

- 1 9. 食べる事への意欲が ADL 向上に繋がった症例
第 29 回東北作業療法学会 山形県山形市 2019 年 6 月 22 日～23 日
○山崎瑞香、川畑智代、山本晶子
- 2 0. 上肢用ロボット型運動訓練装置を導入して上肢機能向上を図れた一症例
第 29 回東北作業療法学会 山形県山形市 2019 年 6 月 22 日～23 日
○村田あすか、浦沢さき、長山悦子
- 2 1. いわてリハビリテーションセンターにおける自動車運転再開支援を行った患者への追跡調査
Follow-up of Driving Resumption Support in Patients
第 53 回日本作業療法学会 福岡県福岡市 2019 年 9 月 6 日～8 日
○小笠原未久、石川侑利奈、大久保訓、阿部深雪、大井清文
- 2 2. 卒後 5 年以下の作業療法士を対象とした災害時リハビリテーション支援に関する意識調査
第 53 回日本作業療法学会 福岡県福岡市 2019 年 9 月 6 日～8 日
○渡部祐介、大久保訓、鷹觜悦子、大井清文
- 2 3. 自動車運転再開に向けて教習所の協力を得て実車評価した事例の追跡調査報告（第一報）
第 33 回岩手県作業療法学会 岩手県花巻市 2019 年 11 月 16 日
○大久保訓、小笠原未久、石川侑利奈、千葉聖矢、鷹觜悦子、阿部深雪、大井清文
- 2 4. 岩手県シルバーリハビリ体操指導者養成事業における平成 30 年度まで活動の拡がりについて
リハビリテーション・ケア合同研究大会 金沢 2019 2019 年 11 月 21 日～22 日
○照井恵利香、山崎麻友、渡部祐介、村上敏昭、渡辺幸太郎、佐藤英雄、高橋真由美、
八重樫一洋、大井清文
- 2 5. 教習所の協力を得て実車評価した事例の追跡調査報告
第 4 回日本安全運転・医療研究会 福井県福井市 2019 年 12 月 13～14 日
○大久保訓、千葉聖矢、石川侑利奈、小笠原未久、鷹觜悦子、阿部深雪、大井清文
- 2 6. 自動車運転再開支援を行った患者への追跡調査（第二報）
第 4 回日本安全運転・医療研究会 福井県福井市 2019 年 12 月 13～14 日
○小笠原未久 藤原史帆 石川侑利奈 大久保訓 大井清文
- 2 7. 自動車運転再開支援を行った患者への追跡調査
～運転の際に注意している点と病前との運転の相違について～
第 33 回岩手県作業療法学会 岩手県花巻市 2019 年 11 月 16 日

- 藤原史帆、小笠原未久、石川侑利奈、山本晶子、大久保訓、阿部深雪、大井清文
28. 岩手県シルバーリハビリ体操指導者養成事業の5年の経過 今後の展望と課題
第33回岩手県作業療法学会 岩手県花巻市 2019年11月16日
○渡部祐介、小志戸前奈那、山崎麻友、照井恵利香、佐藤英雄、高橋真由美、八重樫一洋、大井清文

(言語聴覚療法科)

29. 三次元舌力測定器を用いたバイオフィードバック訓練のための基礎検討
第19回言語聴覚学会 富山県 2019年6月22日～23日
○阿部信之、外下育美、後藤理佳子、渡部小麦、高橋志帆、佐藤義朝、大井清文
岩手大学 大学院工学研究科 佐々木将瑛、佐々木誠
30. 軟口蓋振戦を伴う嚥下障害に頭・頸部屈曲位による直接訓練を継続し3食経口摂取となった脳出血後遺症の1例
第25回日本摂食嚥下リハビリテーション学会 新潟県新潟市 2019年9月6日
○乳井亮輔、佐藤義朝、森潔史、大井清文

B 院内研究発表会

院内職員の研究への意識付けや理解のために毎年、年2回実施している。

ア 第51回院内研究発表会 2019年9月4日 17:30～18:30

1. 頸髄損傷四肢麻痺者の社会参加向上に向けた取り組み ～自助具の作成を通して～
作業療法科 ○吉田健
2. 高次脳機能障がい者支援ツール「日々ノート」有効性についての一考察
臨床心理科 ○吉田賢史、阿部深雪、八重樫一洋、上田大介、後藤敦博、村上敏昭
3. クリニカルラダーレベルⅡ以下の看護師が症例検討会を通して看護師の立場役割発揮できる体制の整備 ～事前準備とリフレクションを促す取り組み～
看護部 ○上斗米律子
4. リハビリ中に精神症状が出現し、フェリチンの減少を伴った神経疾患の2例
診療部 ○佐藤義朝、森潔史、阿部深雪、村上英恵、大井清文

イ 第52回院内研究発表会 2020年3月25日 17:30～18:30

《新型コロナウイルスの感染拡大に伴う院内措置として中止》

C データベース構築及び運用（予後予測システムの構築）

- ア データベースソフトの構築
- イ データベース入力手順の取り決め及び運用
- ウ データベース入力（約4846症例）
- エ 予後予測式の作成および精度の検討

D 動作解析装置運用に関して

動作解析装置の臨床応用を可能にし、より客観的なデータを示すことにより、リハ医療のエビデンスを構築する。そのために十分に器機やデータ分析の方法を理解する必要がある。

国際医療福祉大学大学院教授山本澄子先生を3回招聘し指導を受ける。

(2019年6月5日、9月2日、12月6日)

- ア 機器の精度の検討
- イ 測定法、データ分析の指導を受ける（片麻痺患者の運動解析、健常者における運動機能分析）
- ウ 健常者、患者の動作計測
- エ 学会等で発表
- オ センター職員への教育

E 研究開発部からの派遣

県外で行われている、イベントや研修会に参加し最新の知識を吸収し、研究や臨床、県内専門職への情報提供に生かしていく。

- ア 第46回国際福祉機器展 2019年9月25日～27日 東京
作業療法科 吉田 健

F 研究開発部センター内情報発信活動

- ア 研究開発部マガジン（1回／月、院内向け）No. 310～322 発行
- イ これってな～に??（1回／月 院内向け）No. 99～110 発行
院内向けに、最新の研究や学会情報などを発信し、研究活動に活かしてもらう。
 - ・ホームページの紹介
 - ・リハニュース 福祉機器の紹介
 - ・トピックス
 - ・学会、研修会情報
 - ・研究発表演題の紹介

G 研究活動の支援

- ア 文献検索システムの管理、運営、マニュアル作成
- イ 動画編集システムの管理、運営
- ウ 統計処理のアドバイス
- エ 統計勉強会

H 現在進行中の研究

臨床の中で継続的に検討しているものも含めて、下記のような継続研究テーマを持っている。

- ア 脳血管障害者、頭部外傷者における高次脳機能障害の評価に関する基礎研究
- イ モーターコントロール（運動制御）に関する基礎研究
- ウ 四肢切断者に関する義手、義足の適合に関する検討
- エ C I 療法に関する研究
- オ 嚥下障害に関する基礎研究（V F 検査も含む）
- カ 福祉用具、福祉機器に関する調査、研究
- キ 脳卒中片麻痺患者の動作分析
- ク 脳卒中片麻痺患者の機能回復に関する予後予測
- コ 失語症者における聴覚機能に関する研究
- サ 車いすシーティングにおける基礎的研究

I その他

- ア いわて医療機器事業化研究会研修会参加、協力
- イ 先進医療機器等開発プロジェクトへの協力
- ウ リハビリテーションの提供に関わる総合的な調査研究（リハビリテーション医学会）
- エ 戦略的研究開発推進事業研究実施プロジェクトへの参加・協働研究
- オ 県立大学と共同研究 ①失語症と聴覚機能の評価②失語症者向け自主練習用アプリの開発
- カ データベース構築に関するシステム開発

別紙3

施設の維持管理
設備等点検状況

点検時期	点検項目	点検結果等
H31.4-R2.3	大型吸収冷温水器保守点検	不良部品・交換推奨部品あり
H31.4-R2.3	エレベーター保守点検	異常なし
R1.5	電気設備年次点検	高圧受電設備更新推奨期間超過 非常用発電機経年劣化再起動不可 高圧機中開閉器更新推進時期超過 コンデンサ等経年劣化交換推奨
R1.5	重油地下タンク清掃点検	配管発錆あり 修理済み
R1.5,11	雑排水・汚水・雨水層清掃点検	床面・壁面防食材の剥離あり 雨水槽ポンプ釜場・壁底部腐食あり
R1.11,R2.3	自動ドア保守点検	機器劣化あり、設備更新推奨 正面ドアのみ駆動部交換済み
R1.9, R2.3	高圧蒸気滅菌装置保守点検	異常なし
H31.4-R2.3	空調設備自動制御機器保守点検	機器劣化あり、交換推奨部品あり 電磁流量計使用不可
R1.7, R2.1	消防設備保守点検	避難誘導機器劣化あり、修理済み
R1.10	貯水槽清掃点検	異常なし
R1.11	簡易専用水道検査	異常なし
R1.11	医療ガス設備保守点検	コンプレッサー要オーバーホール、エアー クリーンユニット更新推奨(錆、腐食)等

修繕費(概ね30万円以上)

修繕箇所	修繕内容
空調機器(医局・言語・病棟)	ファンコイル不具合及びダンパー不具合系統交換修繕
空調監視制御装置端末 (北東棟 1F・2F 冷暖房制御不良)	制御装置 RM-21更新交換
自動ドア駆動装置(正面玄関)	経年劣化により故障時に対応できないため交換